



歴史の道

— 痕跡(こんせき) —

▲は遺跡文化財説明板
○はトイレ設置場所

1 : 10,000

0 200 500 1000m

2006年 太宰府市教育委員会作成

第14回 歴史のウォーク 痕跡(こんせき) -街角に埋もれた歴史-

【大宰府政庁跡】



西海道(九国三島)諸国を統括し、「遠朝廷」と呼ばれていた政庁は、発掘調査によって、3時期の建物跡が確認された。最も古いものは7世紀代のもので、現在みることが出来る礎石は941年の藤原純友の乱によって焼失した後に再建されたものであることがわかった。しかし、政庁は11世紀後半代にはその機能を失っていたものと考えられている。

【御笠川 旧護岸跡】



昭和47・8年の洪水以後御笠川の河川改修が行われるようになり、蛇行していたものが直線的で広い川幅を持つ現在のような川筋になった。河床中央の一部に昔の護岸が残っている。

【ドロクサンヤネのセンダン】



江戸時代に陶山道益が御笠川の堤防が頑丈になるようにと竹などを植えた。その藪になった堤防を「ドウエキサンヤネ」といい、いつしか「ドロクサンヤネ」というようになった。河川改修でその堤防はなくなったが、堤防に生えていたセンダンの木が唯一残されている。

【朱雀大路跡】



政庁の南側から二日市付近まであった大宰府条坊の中心を通る大路。幅は奈良時代に36m、平安時代には15mあったとみられ、今でも田圃や宅地割りにその痕跡を見ることが出来る。

【薬師山】



この付近は小字「東蓮寺」とい、田中熊秀が祖父熊別のために建てた東蓮寺の跡と言われている。山頂には薬師堂や十三仏堂などが並んでいる。古代大宰府の大規模な都市整備があった中、現在でも残っている謎の小山である。

【古川橋と梅山】



昭和7年に国道3号線(現国道112号線)が新設された。関屋付近では西鉄大牟田線を跨ぐ橋が造られた。橋の両側には大量の盛土が必要となり、近くの梅山という丘陵が削られ運ばれた。現在でも僅かにその丘陵が残っている。

【筑前国分寺築地跡】



天平13(741)年、聖武天皇の詔により鎮護国家のために全国に造られた国分寺のひとつ。七重塔や講堂などの伽藍が建ち並び、その南辺は築地が築かれていることがわかった。その築地は田圃の段差として残っており、発掘調査で長さ25m、幅4.6m分の築地が確認された。

【国分寺前面道路痕跡】



古代には博多側から大宰府に入る道のひとつに水城東門を通る道があり、東門を入ってまもなく道路は東へ枝分かれし、筑前国分寺に向かっていたことが発掘調査によってわかった。現在、土地の区画によって、その痕跡を確認することができる。

【筑前国分尼寺跡】



国分寺と同時期に建立されたとき、この場所に9世紀後半までの100年間という短期間存在していたと推測される。江戸時代の「筑前国誌風土記」には約20個の礎石が記されているが、現在2個の礎石を見ることが出来る。

【衣掛天神と衣掛石】



衣掛天神の起源は、水城の関守が菅原道真の詠んだ和歌と脱いだ衣を大切にしていたのを、後の人衣掛天神として祀ったのが始まりとも、12世紀の初め頃、市川勝重という人が衣掛石の傍らに小祠を建てたものが後にその東の丘に小祠を移されたともいわれている。

【姿見井】



菅原道真がここで衣を着替えた時、近くにあったこの池に姿を映して、あまりにもやつれた自分の姿を悲しみ、池の水をかき回した。すると水はたちまち濁り、その後決して澄むことがなかったということです。池は現在埋められ万葉歌碑が建てられている。

【水城跡】



663年白村江の戦い敗戦後に、大野城や基肄城とともに造られた防壁のための土塁である。全長1.2km、高さ10m、幅80mの土塁の前には溝が造られ、それらを繋ぐ木樋という導水施設が確認されている。

【宝満隠しと稲子地蔵】



街道を歩いてくるとこの小さな丘の所で、宝満山が急に見えなくなることから「宝満隠し」と呼ぶようになったといわれている。むかし、二人の武士が宝満山を隠す山のあるかないかでケンカになったという話も残っている。宝満隠しの丘の下には小さな祠があり、中に稲子を祀った自然石の地蔵がある。

【苜萱関跡】



平安～戦国時代にかけてあった関所で、古来より歌枕として知られている。苜萱の関守だった苜萱道心と石堂丸の説話は、謡曲などにも取り上げられ、差別難言の日本の悲劇の源泉として知られている。この碑は以前あった石堂丸の姉、千代鶴の墓の近く建てられたものである。

【天満宮一の鳥居】



博多から二日市へ抜ける街道から、太宰府天満宮へ向かう道の分岐点に石鳥居が建っている。鳥居は文久2(1862)年に建てられたもので、傍らに元禄4(1691)年と享和2(1802)年に建てられた道標と享和2(1802)年の石燈籠と潮音台が並んでいて、太宰府天満宮参詣の入口だったことが窺える。